

# 平成26年度病害虫発生予察警報第1号

平成26年8月20日

鳥取県病害虫防除所

## 警報の概要

7月15日付けで穂いもちに対する注意報を発表し、防除の徹底を呼びかけているところであるが、8月上旬より曇雨天が続き、穂いもちが多発しやすい条件となっている。穂いもちが発生してからの防除が困難であるため、すでに出穂している早生品種では穂揃い期防除、中生品種では穂ばらみ期および穂揃い期の防除の徹底を図る。

病害虫名：イネいもち病（穂いもち）

- 1 対象作物 イネ
- 2 発生地域 全域
- 3 発生時期 8月下旬以降
- 4 発生量 多い

## 5 警報発令の根拠

- (1) 7月下旬の調査では、穂いもちの伝染源となる葉いもちの発生ほ場率が40%であったが、8月18日現在の発生ほ場率は53%（平年：27%）に増加している。
- (2) 8月18日現在、これから出穂期を迎える「きぬむすめ」等の中生品種栽培ほ場では、感染能力を保ったいもち病斑が広域で確認されている。
- (3) 8月上旬より現在まで曇雨天が続いており、「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」等早生品種の穂ばらみ期～穂揃い期が、いもち病の発生に助長的な条件で経過している。さらに、8月19日発表の中国地方週間天気予報では、いもち病の発生に助長的な曇雨天で経過すると予想されている。
- (4) 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「きぬむすめ」等、いもち病に弱い品種の栽培面積が90%以上をしめている。また、日照不足の影響により、イネの生育は軟弱気味で経過しており、いもち病に罹病しやすい体質となっている。

## 6 防除上注意すべき事項

- (1) 穂いもちが発生してからの防除が困難であるため、以下を参考にして防除の徹底を図る。
  - ア 「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」等、早生品種栽培ほ場  
大部分が穂揃い期を迎えているので、穂揃い期防除を行っていない場合は、粉

剤、水和剤などを用いて直ちに防除する。上位葉における発病が多く、穂いもちの多発生が予想される場合は、穂揃い期の7～10日後（傾穂期）の防除を追加する。

イ 「きぬむすめ」、「日本晴」等、中生品種栽培ほ場

これから出穂期を迎えるので、穂ばらみ期および穂揃い期の2回、いもち病単剤又はこれらを含む混合剤の粉剤、水和剤などを用いて防除を徹底する。周辺ほ場でいもち病が発生している場合は特に注意する。早生品種と同様に、上位葉における発病が多く、穂いもちの多発生が予想される場合は、穂揃い期の7～10日後（傾穂期）の防除を追加する。

- (2) 降雨が続く場合は、雨の止み間をみて防除を行う。この場合、散布後約3時間経過すれば、降雨の影響は少ない。
- (3) 防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守る。特に、葉いもちの追加防除を行ったほ場では、農薬の総使用回数を超えないよう関係指導機関に相談し、十分注意して穂いもち防除を行う。また、カスガマイシンを含有する薬剤（ダブルカット）の使用時期は穂揃い期までであるので注意する。

表 いもち病防除薬剤の例

薬剤名	使用時期	用途
ビーム粉剤DL	収穫7日前まで	予防剤
ビームゾル	収穫7日前まで	予防剤
ラブサイド粉剤DL	収穫7日前まで	予防剤
ラブサイドフロアブル	収穫7日前まで	予防剤
ダブルカット粉剤3DL	穂揃期まで	予防・治療剤
ダブルカットフロアブル	穂揃期まで	予防・治療剤
ノンプラス粉剤DL	収穫7日前まで	予防・治療剤
ノンプラスフロアブル	収穫7日前まで	予防・治療剤
ブラシン粉剤DL	収穫7日前まで	予防・治療剤
ブラシン水和剤	収穫7日前まで	予防・治療剤
ブラシンフロアブル	収穫7日前まで	予防・治療剤
ラテラ粉剤DL	収穫14日前まで	予防・治療剤